

第25回全国障害者スポーツ大会
青森県準備委員会

第2回会議



書面開催資料

書面決議書締切：令和3年3月15日（月）

※中央の図は、全国障害者スポーツ大会のシンボルマークです。

第25回全国障害者スポーツ大会青森県準備委員会

第2回会議 目次

○委員名簿		P 1
○審議事項		
第1号議案	第25回全国障害者スポーツ大会 開催基本方針（案）について	P 3
第2号議案	第25回全国障害者スポーツ大会 競技役員等養成基本方針（案）について	P 4
第3号議案	第25回全国障害者スポーツ大会 ボランティア養成基本方針（案）について	P 6
第4号議案	第25回全国障害者スポーツ大会 広報基本方針（案）について	P 8

第25回全国障害者スポーツ大会青森県準備委員会 委員名簿

委員会 役職	分野	団体名	職名	氏名
会長	障害者 団体	一般財団法人青森県身体障害者福祉協会	会長	やまだ かねはる 山田 金治
副会長		一般社団法人青森県手をつなぐ育成会	理事長	あべ ひろこ 阿部 弘子
委員	障害者 スポーツ	特定非営利活動法人青森県障害者スポーツ協会	理事	なかじま みき 中嶋 実樹
委員		青森県障害者スポーツ指導員会	会長	ふくさわ かずひこ 福沢 和彦
委員	障害者 団体	一般社団法人青森県視覚障害者福祉会	会長	ささき ひでかつ 佐々木 秀勝
委員		一般社団法人青森県ろうあ協会	副会長	なかがわら てるのぶ 中川原 輝信
委員		青森県精神保健福祉協会	会長	たさき ひろいち 田崎 博一
委員		社会福祉法人青森県社会福祉協議会	事務局長	たかはし きんいち 高橋 金一
委員	学校教育	青森県特別支援学校校長会	会長	こうた たかし 甲田 隆
委員		青森県特別支援学級・通級指導教室設置学校長協議会	会長	ふじた こうじ 藤田 浩司
委員	競技団体	公益財団法人青森県スポーツ協会	専務理事	おがさわら ひろし 小笠原 博
委員		一般財団法人青森陸上競技協会	副会長	たかだ ゆうじ 高田 雄司
委員		一般社団法人青森県水泳連盟	障がい者委員会委員長	うちみ つとむ 内海 勉
委員		青森県アーチェリー協会	副会長	おだぎり みのる 小田桐 稔
委員		青森県卓球連盟	副理事長兼事務局長	ふじた さとる 藤田 暁
委員		青森県障害者フライングディスク協会	会長	さいとう まこと 齊藤 誠
委員		青森県ボウリング連盟	会長	こうりん しゅういつ 幸林 周逸
委員		一般財団法人青森県バスケットボール協会	理事兼事務局長	はらこ けいいちろう 原子 圭一郎
委員		青森県車椅子バスケットボール連盟	事務局長	たかすぎ かつひこ 高杉 勝彦
委員		青森県ソフトボール協会	理事長	あんどう ともふみ 安藤 智史
委員		青森県バレーボール協会	強化委員 (障害者スポーツ担当)	こまつぎ きしゆん 小松崎 瞬
委員		一般社団法人青森県サッカー協会	専務理事	おおみなみ ひろよし 大南 博義
委員		青森県ポッチャ協会	専務理事	くしびき こういち 櫛引 宏一
委員		輸送・交通	公益社団法人青森県バス協会	専務理事
委員	宿泊・観光	青森県旅館ホテル生活衛生同業組合	理事長	ふくし けいすけ 福士 圭介
委員		公益社団法人青森県観光連盟	専務理事	こうさか かん 高坂 幹
委員	市町村	青森県市長会	事務局長	しまぐち こうぞう 嶋口 幸造
委員		青森県町村会	常務理事兼事務局長	はらた けいいち 原田 啓一
委員	県	企画政策部国民スポーツ大会準備室	室長	おがさわら ただよし 小笠原 忠儀
委員		教育庁学校教育課特別支援教育推進室	室長	さとう ちゅうぜん 佐藤 忠全
委員		教育庁スポーツ健康課	課長	やちむら かつひさ 谷地村 克久

第25回全国障害者スポーツ大会 開催基本方針（案）

縄文の頃から築き上げられてきた文化と伝統など情緒あふれる青森の地で開催される第25回全国障害者スポーツ大会は、障害のある人もない人もスポーツを通じて障害に対する理解を深め、障害者の社会参加を一層推進するとともに、すべての人が共に支え合い、安心して暮らすことができる社会を目指す大会とし、次の4つを基本方針とします。

1 共に支え合い、思いやりの心を育もう！

障害のある人もない人も、スポーツを通じて思いやりの心を育み、競技に参加する選手、選手を支える家族、選手を応援する仲間、大会を支えるスタッフみんなの喜びと感動があふれる大会にします。

2 来県者との新たな友好関係を築こう！

多くの県民がボランティアや競技スタッフなど様々な形で大会に参加するとともに、来県者の方々をまごころ込めてお迎えし、競技や大会イベント等を通じて新たな友好関係を築く大会にします。

3 青森の魅力を全国に伝えよう！

県民一人ひとりが、大会を通じて、縄文の頃から築き上げられてきた文化と伝統、自然、習慣、方言、祭り、食べ物などの地域資源を有する「ふるさと青森」に愛着と誇りを持つとともに、これらの青森の魅力を全国に発信する大会にします。

4 仲間とともにさらなる高みを目指そう！

障害のある人が可能性にチャレンジし、持てる力と技を存分に発揮できるよう、選手の育成や指導者の養成など、競技力の向上を図るとともに、今後さらなる高みを目指す仲間と出逢う大会にします。

第25回全国障害者スポーツ大会 競技役員等養成基本方針（案）

第25回全国障害者スポーツ大会における競技役員、競技補助員（以下「競技役員等」という。）は、円滑な競技運営と障害者スポーツの振興及び障害者の社会参加の推進に寄与することを目的として、次により計画的に養成する。

1 競技役員等の定義

- (1) 競技役員は、競技運営や審判、競技記録等の業務に携わる者をいう。
- (2) 競技補助員は、競技役員の補助に携わる者をいう。

2 基本方針

- (1) 競技役員等については、競技運営主管団体と連携のうえ、できる限り県内有資格者により必要人数を確保することを目標として養成する。
- (2) 円滑な競技運営を図るため、各競技役員の負担軽減を考慮し、1人1競技を原則として養成する。
- (3) 県、会場地市町村及び競技運営主管団体の業務分担を明確にし、十分に連携を図りながら養成する。
- (4) 資格が必要な競技役員については、資格取得及び資質の向上が重要となることから、年次別の養成人数を計画して養成する。
- (5) 資格が不要ない競技役員等については、障害者スポーツの振興及び障害者の社会参加の推進に寄与するため、県民の積極的な参加と協力を呼びかけ、県内において幅広く確保できるよう養成する。

3 養成計画

競技役員は、中央講習会等派遣や県内講習会等において養成し、競技補助員は、県内講習会等において養成する。

【養成スケジュール】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
競技役員				編成計画策定	役員編成	リハール大会 → 本大会
	養成（講習会開催、審判実務参加、大会視察等）					
競技補助員				編成計画策定	補助員編成	リハール大会 → 本大会
	養成（講習会開催、現地研修等）					

(参考) 想定される競技役員等必要数及び養成協力団体

※競技運営主管団体は調整中であり、確定しているものではありません。

競技名		競技役員	競技補助員	競技運営主管団体	協力団体
個人競技 (7競技)	陸上競技(身・知)	340人	360人	一般財団法人青森陸上競技協会	高等学校・短期大学・大学・専修学校等
	水泳(身・知)	130人	90人	一般社団法人青森県水泳連盟	
	アーチェリー(身)	50人	110人	青森県アーチェリー協会	
	卓球(身・知・精) [STT(身)を含む]	140人	80人	青森県卓球連盟	
	フライングディスク(身・知)	120人	140人	青森県障害者フライングディスク協会	
	ボウリング(知)	60人	40人	青森県ボウリング連盟	
	ボッチャ(身)	100人	30人	青森県ボッチャ協会	
小計	940人	850人			
団体競技 (7競技)	バスケットボール(知)	80人	60人	一般財団法人 青森県バスケットボール協会	
	車いすバスケットボール(身)	60人	60人	青森県車椅子バスケットボール連盟	
	ソフトボール(知)	70人	40人	青森県ソフトボール協会	
	グラウンドソフトボール(身)	90人	40人		
	フットベースボール(知)	80人	40人		
	バレーボール(身・知・精)	140人	230人	青森県バレーボール協会	
	サッカー(知)	80人	60人	一般社団法人青森県サッカー協会	
	小計	600人	530人		
合計	1,540人	1,380人			

※実施競技は、令和2(2020)年度「全国障害者スポーツ大会競技規則」に、令和3年度から実施されるボッチャ競技を加えた14競技とする。

第25回全国障害者スポーツ大会 ボランティア養成基本方針（案）

「第25回全国障害者スポーツ大会」に参加する選手・監督、役員、視察員、報道員及びその他の関係者（以下「大会参加者」という。）並びに一般観覧者をサポートするため、大会参加者や一般観覧者をもてなす「大会運営ボランティア」をはじめ、手話や要約筆記等で情報提供を行う「情報支援ボランティア」、選手団と行動を共にする「選手団サポートボランティア」など、多様なボランティアを計画的に養成する。

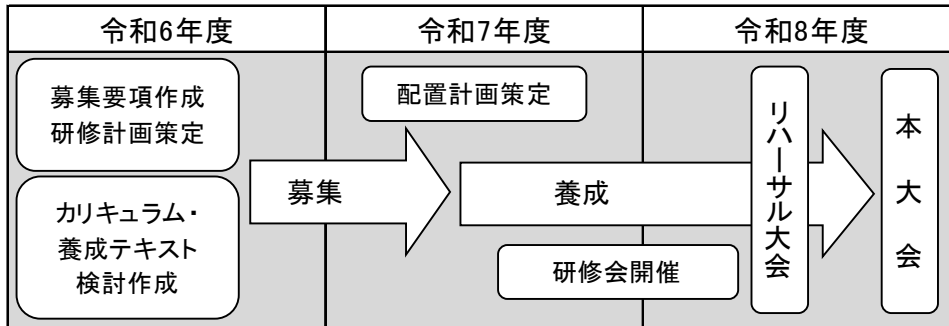
1 大会運営ボランティア

大会参加者及び一般観覧者をおもてなしの心でお迎えするため、第80回国民スポーツ大会と連携して、大会運営ボランティアを広く県民から募集する。

（1）種別及び内容

種別	内容	人数
案内・介助	総合案内所などでの案内・誘導・介助	3,500人
会場整理	観客の改札、案内、誘導	
会場美化	飾花の管理、会場の清掃	
会場サービス	弁当、飲み物の配布	
式典	開・閉会式の式典補助	
ふれあい広場	ふれあい広場の運営補助	

（2）養成スケジュール



2 情報支援ボランティア

聴覚に障害のある方への情報保障を図るとともに、すべての人にわかりやすい情報提供を行うため、関係団体等の協力を得ながら、各種情報支援ボランティアを養成する。

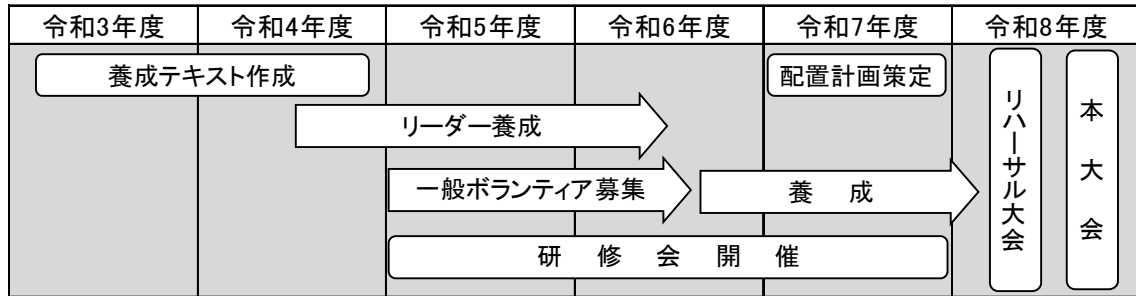
（1）種別及び内容

種別	内容	人数
手話	手話による情報の提供及びコミュニケーション保障	400人
要約筆記 (手書き)	ノートテイクやホワイトボードを使用した情報の提供	150人
要約筆記 (PC)	パソコンに入力したデータ情報による情報の提供	50人
合計		600人

(2) 養成協力団体

一般社団法人青森県ろうあ協会 等

(3) 養成スケジュール



3 選手団サポートボランティア

大会に参加する選手及び役員の介助・誘導等のサポートを行い、大会運営の円滑化を図るとともに、選手との交流を通して次世代を担う若者が障害のある方への理解を深め、大会終了後も様々なボランティアとして地域で活躍するきっかけとなるよう、学生等で構成する選手団サポートボランティアを養成する。

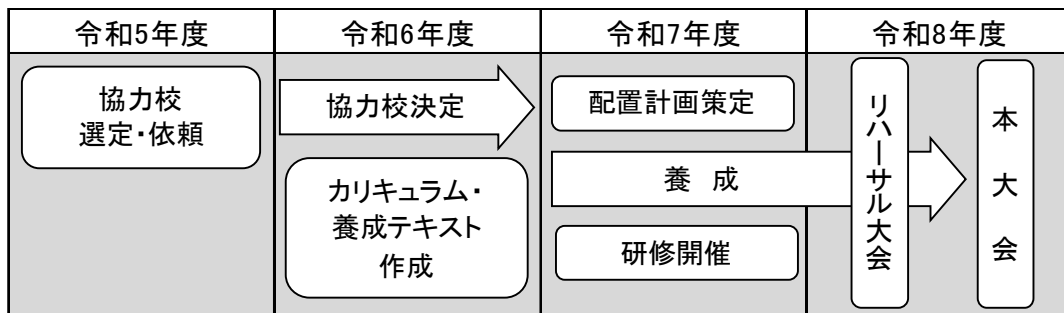
(1) 種別及び内容

種別	内容	人数
選手団サポート	選手団の歓送迎・介助・誘導・交流等、来県から離県まで選手団と行動を共にする。	800人

(2) 養成協力団体

大学・専門学校 等

(3) 養成スケジュール



第25回全国障害者スポーツ大会 広報基本方針（案）

第25回全国障害者スポーツ大会の開催意義を広く県民に周知し、障害や障害者への理解を深め、大会への参加意識の高揚と県民の積極的な参加を実現するとともに、大会開催と青森の魅力を全国に発信するため、第80回国民スポーツ大会（以下、大会愛称「青の煌（きら）めきあおもり国スポ」とする）と一体となり、積極的な広報活動を展開する。

また、各報道機関が円滑な報道取材を行えるよう準備する。

1 広報活動

青の煌めきあおもり国スポと一体となり、計画的かつ効果的な広報活動を展開することにより、大会開催の意義や県民運動の周知を図る。

（1）各種の広報媒体を活用した効果的な広報の展開

ポスター、リーフレット、屋外広告物、テレビ、新聞、インターネット等の多様な媒体を活用し、障害のあるなしに関わらず、あらゆる人にとっての使いやすさ、分かりやすさに十分配慮するとともに、各段階に応じた効果的な広報を展開する。

（2）イベント等を利用した大会開催機運の醸成

関係団体の協力を得て、各地で実施される各種イベント等を活用したPRに努めるなど、大会開催機運の醸成を図る。

（3）大会の愛称等の積極的な活用

大会の愛称、スローガン、マスコット、イメージソング等を積極的に活用し、広く周知を図るとともに、親しみやすい大会を演出する。

（4）青の煌めきあおもり国スポとの連携

青の煌めきあおもり国スポと一体となり、大会開催機運の醸成や県民運動の効果的な推進を図る。

2 大会の記録

大会の記録映像及び記録写真集等を制作し、その感動と興奮を永く記録にとどめるとともに、障害者スポーツの振興及び障害に対する理解の促進や障害者の社会参加の推進に活用する。

3 報道取材

全国から参集する報道関係者の取材活動に対応するため、青の煌めきあおもり国スポと合同で報道機関による組織を別途設置し、報道に関する調整を図る。